

令和7年度 洗足池小学校 授業改善推進プラン

◇ 国語科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

主語、述語、修飾語、敬語などの指導を繰り返し行ってきたが、まだ十分身に付いているとは言えないので、継続して重点的に指導をすることが必要。語彙についても、日常生活の中で使える語句を増やし、確実に習得させていきたい。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(低学年)：長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して、文の中で使えるようにくり返し練習させるとともに、絵本など読み聞かせを通して、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使えるように指導する。

(中学年)：主語と述語の関係、修飾語、指示する語句と接続する語句の役割について指導を繰り返し、文と文の関係などについて理解できるようにさせる。

(高学年)：主語と述語、修飾語、敬語などについて繰り返し指導したり、様々な表現の工夫に触れることを通して、比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるようにさせたりする。

◇ 社会科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

様々な社会事象について主体的に捉え、議論することはできるが、自ら学習課題を見出すことは難しい。身に付けた知識・技能、社会的な見方・考え方を生かして、思考・判断することはできている。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(中学年)：表やグラフなどの基本的な資料の読み取りを行う機会を意図的に設定する。

(高学年)：地図帳や資料集を活用しながら、基本的な知識・技能の定着を目指していく。特に「工場の仕事」の分野では、資料の読み取りを丁寧に行い、学習の充実を図っていく。

◇ 算数科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

数学的な見方・考え方を説明することに課題があったが、学習効果測定の結果では、理由を説明する記述式の問題がいずれの学年も目標値を上回り、改善が見られた。これは、日々の授業で図や式、言葉などを結びつけながら自分なりに考えを表現したり、全体で共有したりする活動を継続的にやってきた結果と考えられる。しかし、データ活用については学年が上がるほど、正答率が低くなる傾向にあり昨年度同様、改善の必要がある。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(低学年)：加法・減法などの数と計算領域、図形領域においては、具体物や半具体物等を用いた具体的操作を十分に行い、計算の意味理解や図形の特徴の理解が十分にできるように指導する。また、その理解をもとに自分の考えを整理し、筋道を立てて考え表現する活動を多く取り入れる。

(中学年)：分数・整数・小数を統合的にとらえられるよう、実物や数直線等を用いて数感覚を養うと同時に量感が身に付くよう指導する。図形領域においては具体的な操作を重視し、図形の性質を理解できるよう指導する。低学年で身に付けた学習内容を基に、既習事項を生かしながら自力解決する時間を確保し比較検討させる活動を取り入れる。

(高学年)：図形領域においては、既習の図形を様々な観点から見直ししながら、図形の性質を確実に理解した上で作図ができるよう指導する。データの活用領域においては、課題に対し、活用できそうな既習内容を取捨選択し、何を使って解決するか判断する力を身に付けさせる。そのために、既習内容の整理を行い、児童の実態に合った見通しをもたせた上で解決できるよう指導する。

◇ 理科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

具体物の観察機会を充実させたり、積極的に ICT の活用を図ったりすることで、基本的な知識の理解の定着を目指した。学力効果測定の結果では、まだ正答率が目標値に達していない児童も多く、定着したとは言えない。ただ、理解した内容を活用し、記述する問題では正答率があがっており、授業内で自分の言葉で表現する機会を増やした効果があったと考えられる。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(中学年) : 基本的な知識の理解の定着を図るために、実験機会や実際に具体物を用いての活動を充実させる。
(高学年) : 実験機会の充実を図り、器具の正確な使い方や名称、基礎的な理解の定着を目指す。また、実験結果から分かったことなど、理解した内容を自分の言葉で表現する活動を充実させる。

◇ 外国語科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

アルファベットの読み方を正しく理解させるために、繰り返し発声する時間をとったことで、アルファベットの読み方の定着が見られた。一方、自分の気持ちや考えを伝えるための表現を使う場面を設定し、やり取りの中で活用できるようにすることについては、引き続き実施する必要がある。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(高学年) : 自分の気持ちや考えを伝えるための表現、とくに自由記述が求められる場面を設定し、やり取りの中で活用できるようにする。

◇ 生活科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

児童が自分で調べることができる資料の十分な準備と、具体的な取り組みの際の事前指導を丁寧に行った。また、自分の考えや思いを児童同士が共有する場を定期的に設けたり、掲示物などで学習過程を視覚化したりすることができるようにした。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(低学年) : JA 農業協同組合などのゲストティーチャーから花や野菜の育て方についての講話を聞いたり、トウモロコシの皮むき体験などの体験活動をしたりして、自分事として積極的に活動に取り組み、問題解決が図れるようにしていく。

◇ 図工科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

低学年においては、感じたことや思いついたことを自由にのびのびと表すことができる。その一方で、描くことや作ることに苦手意識がある児童については、諦めてしまう傾向が見られる。中・高学年においては、他者の発想のよさを取り入れたり、既習事項を活かしたりする点については定着が見られた。道具の扱いが不慣れであったり、抽象的に表す経験が十分でなかったりする。技能面と表現方法の面で課題が残る。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(低学年) : 教材の提示の仕方を工夫し、どの子も「描いてみたい」「作ってみたい」と楽しく取り組もうとする態度を育て、造形的な面白さや楽しさ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げられるようにする。
(中学年) : 道具の扱いに慣れ、表現の幅を広げることで、より自分らしく想像豊かに表すことができるようにする。
(高学年) : 抽象的に表す経験を通して、自分の内面や思いを表すための方法手段があることを学び、作品づくりに活かしていく。

◇ 音楽科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

周りの音に合わせて歌ったり演奏したりする技能は定着が見られた。また、全体で音楽的要素を確認しながら、表現の工夫を考えることができるようになってきた。しかし、呼吸や発音に気を付けて、自然で無理のない発声で歌ったり、音色や響きに気を付けながら楽器を演奏したりする技能はまだ課題が残る。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(低学年)：考えた音楽表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や、音色に気を付けて楽器を演奏する技能を身に付けられるようにする。

(中学年)：曲の特徴をとらえた表現の工夫を考えて演奏できるように、自然で無理のない歌い方で歌う技能や、音色や響きに気を付けて楽器を演奏する技能を身に付けられるようにする。

(高学年)：今までに得た知識と関連付けながら、曲の特徴にふさわしい表現の工夫を考えて演奏できるように、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、音色や響きに気を付けて楽器を演奏する技能を身に付けられるようにする。

◇ 家庭科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

調理実習や洗濯実習など体験活動を多く取り入れている。また、「家では、普段どうしてる?」「今回の学習を生活のどんなところに生かせそう?」などの問いかけで、自身の生活に学習を生かせるようにしている。継続的な指導が必要なため、前年度と同様の改善策で指導を続けていく。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(高学年)：実際の生活場面を想起しながら体験活動を多く取り入れ、児童自らが生活に生かせるよう工夫する。

◇ 体育科

【令和6年度授業改善推進プランの振り返り】

令和6年度に実施した体力テストの結果を受け、本校の課題として運動における基本的な動きを支える「基礎体力の向上」が課題であると認識した。そのため、校内の取り組みとして「なわとびタイム」を実施し、課題克服を図った。そして令和7年度に実施した体力テストの結果を見ると、中・高学年は概ねどの種目も全国平均値に近い結果となった。一方で低学年では、全国平均値と比べた学校平均値のグラフの形が歪であったことから、児童の運動能力のバランスが課題であると認識した。

【令和7年度授業改善推進プラン】

(低学年)：運動における基本的な動きをバランスよく身に付けさせるため、教師は全身の筋力や柔軟性を向上させる体づくり運動遊びを準備運動や毎回の帯活動に設定してバランスよく運動能力を伸ばせるようにする。

(中学年)：運動における基本的な動きを身に付け、向上させるために、児童は自らの運動における課題に気づき、改善していく必要がある。そのため教師は児童に自身の動きをタブレットで動画撮影させ、客観的な視点で課題発見・改善ができるようにする。

(高学年)：運動における基本的な動きを身に付け、向上させるために、児童は自らの運動における課題に気づき、改善していく必要がある。そのため教師は児童に自身の動きをタブレットで動画撮影させ、客観的な視点で課題発見・改善ができるようにする。